



2024年度 地域の学校体育支援プロジェクト

～ 大学生と地域の子どもとのかかわり・学び合い ～



1. 活動の目的

学校体育、とりわけ小学校体育では、その目標を、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」とし、他教科同様、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱が挙げられている。豊かなスポーツライフとは、生涯にわたる日常生活の中での、スポーツと多様なかかわりを創っていくことであり、このスポーツの力が、SDGs の目標達成に貢献するものと考えられる。また、スポーツ庁は、「SDGs の達成にスポーツで貢献していく」と明言し、企業や団体との連携を強化している。スポーツには、心身の健康の維持増進だけでなく、大きな役割を果たすことが期待されているのである。

しかし、教育現場においては、「体育嫌い」「運動嫌い」の子どもは、少なからず見られ、その増加が懸念されているのが現実である。「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、運動やスポーツが「やや嫌い」「嫌い」と答えた小学生が14%に達すると報告されている。また、家庭における戸外遊びの三問（時間、空間、仲間）の減少が、この傾向に拍車をかけている。運動遊びの機会の減少によって、子どもは運動から離れていってしまうのである。さらに、教育現場では、多様な価値

観に応えることが求められている。

そこで、今回は、こうした子どもたちの「体育嫌い」「運動嫌い」の解決の糸口をつくり、先に述べた「豊かなスポーツライフの実現」に向けた一歩を踏み出すべく、学校体育を中心にして、学生による支援プロジェクトを立ち上げることにした。

本プロジェクトは、初等教育教員を志す学生で組織され、本年度は、浜松市並びに磐田市小学校を中心として、**体育科の授業支援、体育的行事の支援、その他学校における体育活動の支援を実施することで、子どもたちの運動への興味・関心の高揚並びに運動技能の向上に寄与していくことを目的としている。**

この取組は、学生の教育現場における力量形成にもつながるものとなる。

2. 活動内容・方法

浜松を中心とした県内西部地区の小学校を対象とする。まず本年度は、磐田市の中心部に位置する磐田市立磐田北小学校及び、体育科研究を長年にわたって推進してきている浜松市立相生小学校を中心に支援にあたる。

なお、2023年度、両校には運動会支援（磐田北小、相生小）、業間運動（「ハロススポーツ」）支援（相生小）を実施してきており、共に2024年度の継続支援の要請を受けている。そこで、学校からの支援の具体的な要望と学生のニーズを調整しながらWin-Winの関係築きつつ、継続性を持ったプロジェクトとする。

2024 プロジェクトの内容

- (1) 体育科授業支援：ボール運動系、器械運動系、水泳運動系等の授業支援
- (2) 体育的行事支援：運動会、持久走大会の運営支援、子どもの活動支援等
- (3) 体育的活動支援：業間運動における活動支援、運営支援
- (4) その他学校で必要とする支援：各教科授業支援、児童支援

3. プロジェクト実践例

水泳の授業支援（AED 講習参加・体育（水泳）授業への支援）



磐田北小学校の水泳ボランティアでは、特に安全面において学びがあった。水の事故が少なくないため、学校の先生方も特に、安全面における配慮をしていた。その中でも、私が特に大切だと思ったのは、バディである。授業の前後にバディで人数確認をするだけでなく、バディで泳ぎの練習をすることで、事故を減らし、1対1での教え合いにつなげていた。私も水泳指導では、このバディを大切にしたい。 (T 学生)

運動会支援（徒競走決勝審判・各種目用具準備片付けの支援）



磐田北小学校の運動会ボランティアでは、会場の「一体感」が特に印象に残った。チームごとの応援に太鼓を活用したり、応援リーダーが積極的に声を掛け、リードしたりすることで、よりチームの一体感が出ていた。この一体感は、先生方の指導によるものだと思った。決勝でのビデオ判定は、やってみて、なるほどよい方法だと思った。 (H 学生)

業間体育支援（「アイ・スポーツ」竹馬遊び・大縄跳びの支援）



竹馬の支援では、足の向きや手の位置など、どういった点を意識するのか、棒を強く握りすぎず、子どもが自分で棒を動かすようにするなど技術的指導を学んだ。8の字跳びでは、縄を回す向きや回す速さを、子どもの実態に合わせる事が大切であることを学んだ。（I 学生）

5年宿泊体験学習支援（山頂登山・棚田ハイクの活動支援）



私は観音山宿泊体験学習に参加し、特に健康面における配慮について学んだ。宿泊体験学習では、数少ない教員で多くの子どもの指導にあっていた。その中で、体調確認や人数確認を班長の子どもの中心として班ごとに行っていた。そうすることで、子ども自身が健康への意識を高めると共に、互いに気遣う気持ちを育めるのではないかと感じた。そして、観音山での3日間を健康に過ごせることにつながるのではないかと考えた。（I 学生）

持久走大会支援（決勝審判補助・コース上での児童支援）



相生小学校の持久走大会ボランティアでは、ゴールで身体の一部でタイムを測るのか、コース上でどのような支援や声掛けをすればよいか、先生方に聞きながら、学ぶことができました。

（M 学生）

その他の教科での学習支援（5年算数科の授業支援）



5年算数科「割合」の授業支援では、問題を解くスピードがそれぞれ違うため、どの程度時間を確保して、発表までの流れを作るのか、一時間毎の授業によって、臨機応変な対応が必要であるとあらためて感じた。また、割合を求める方法として、線分図や4マス表など様々な方法があり、子どもの考えをどのようにまとめていけばよいか工夫していく必要があることを、子どもと実際にかかわりながら学んだ。（H学生）

4. 成果と今後の展開

2024 プロジェクトの成果指標

- (1) 子どもが運動（遊び）することの楽しさ・よさを実感し、続けて運動（遊び）に親しもうという意欲を高めている。（関心・意欲の高揚）
- (2) 子どもができるようになったという達成感・成就感を感じている。（技能向上）
- (3) 教員が学生の支援のよさを実感している。（学校への寄与）



学生の温かな声掛け、子どもたちの発達段階に合わせた支援により、子どもたちが運動に親しむ機会を教員と学生と一緒に創りあげることができました。今後も、地域の子どもたちが運動に親しむ機会を創るため、学校と学生が手を取り合うことができればよいと思っています。



8の字とびでお兄さんお姉さんになわを回してもらいました。「こうやったらいいよ。」とアドバイスをくれました。教えてくれたから、初めてできるようになりました。またいっしょに運動したいな。



先生以外に大学生が見ていてくれたから安心してできた。それに、どうすれば泳げるようになるか教えてくれて、うれしかった。困ったときにも声をかけてくれた。



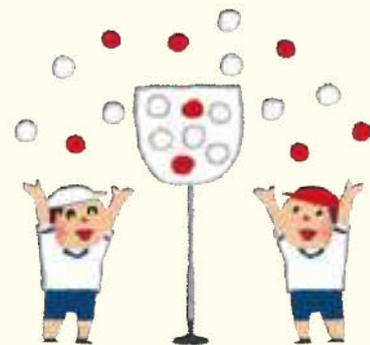


プロジェクトに関する 先生方からの声



1. 運動会支援について

- 運動会の際、自分たちで気付いて仕事を見つけ、言われたこと以外もてきぱきと動く姿に感心しました。会のスムーズな運営に貢献していただき、ありがとうございました。
- 運動会では、お弁当のある音楽室での待機を急遽お願いしました。着順判定の録画や球入れでの棒の支持も助かりました。ありがとうございました。
- 運動会では、人手の足りないところついていただき、助かりました。特に、子どもだけだとうまくできないところをカバーしてくださり、助かりました。
- 運動会で、学年種目の大玉の準備や審判をしていただき、助かりました。
- 運動会で徒競走の決勝の動画撮影をしていただきました。とても助かりました。来年度もぜひお願いしたいです。
- 運動会では、多くの手伝いをしてくれたので、とても助かりました。
- 大学生のボランティアの方が運動会の動画撮影を担当してくださったおかげで、複数あった自分の担当の仕事をやりきることができました。ありがとうございました。
- 運動会での道具の準備、片付けをしてもらい、とてもありがたかった。
- 周りを見て動く姿に、感心しました。
- 運動会では、人手が欲しい仕事を手伝っていただき、大変助かりました。
- 運動会で足りない役を引き受けてくれて、とても助かった。
- 手伝いにきていただけてとてもありがたいと思いました。



2. 水泳授業支援について

- 水泳は、様々なりスクがある中で貴重な大人の目が増えたことにより、活動の幅や児童の見取りのレベルが大幅に向上しました。大学生ボランティアの方との連携は今までの教職経験ではなかったことでした。個人的には大変感謝しております。学生生活のお忙しい中、子どもたちのためにお時間を割いていただき、本当にありがとうございました。
- 指導人数が多くなり、安全性が高まった。
- プール指導に大人の目が増えるのは大変ありがたいと感じた。運動会でも気持ちよく働いてくださり大変助かった。
- 主に水泳授業で御協力をいただきました。夏の暑い中でしたが、本当によく活躍してくれました。特に泳法指導においては、実際に児童のお手本となり、動きを見せてくれたことで、児童の泳力向上につながったと思います。また、児童への声掛けや対応も丁寧で、私自身も多くのことを学ぶことができました。



3. 今後の展開等について

- もっと事前に指導内容を共有できれば、なおいいと思いました。
- 水泳授業だけでなく、運動会においても自ら気付いて動くことができている、事前の川島先生の御指導があったからだとも思いました。
- 学校が人手不足の中で、浜松学院の学生さんのようなボランティアの方が来てくれることは大いに助かっています。児童に関わるということで、誰にでも任せられるものではないと思いますが、浜松学院の学生さんには安心して任せることができました。今後も無理のない範囲で、活動の幅が広がっていただけることを期待しています。
- また、来ていただけるとありがたいです。
- 算数の支援などにも入っていただけると助かります。
- プール補助を継続してお願いします。
- 運動会はお手伝いしていただけるとありがたいです。

